

監修：むろらん神経内科クリニック 院長 **大塚 千久美**先生

病気

パーキンソン病の進行と腰痛は関係があるのでしょうか。最近特に腰痛がひどく、2～3分くらい腰を伸ばした姿勢でいると痛くなって動けなくなります。また、物を長く持てません。(60代・女性より)

痛みは、パーキンソン病の患者さんがお困りになることの多い非運動症状のひとつです¹⁾。腰痛は、パーキンソン病の運動症状に伴う前かがみや腰曲がりなどが原因で、腰や首、背中 of 筋肉や骨、神経に負担がかかることで起こることがあるので、腰痛はパーキンソン病の進行にも関係している可能性があります。

気になる症状がありましたら主治医にご相談ください。

腰椎の変形や圧迫骨折などは、パーキンソン病以外の病気でも起こりえるので、医療機関では、まずパーキンソン病以外に原因はないかを確認します。

もしなければ、

- ① パーキンソン病の治療の強化
- ② 鎮痛薬の使用
- ③ 生活上の工夫(体を動かす、姿勢に注意する)

などの対応を考えます²⁾。

物を長く持てないことの原因としては、筋肉のこわばり、手足のしびれ、痛みなども関係するでしょう。腰痛と同様の対応が検討されます。

なお、鍼灸やマッサージで症状がやわらぐこともあります²⁾。

【参考資料】

- 1) 柏原健一(柏原健一ほか編): みんなで学ぶパーキンソン病. 南江堂, 東京, pp121-122, 2013.
- 2) 柏原健一(監修): パーキンソン病のことがよくわかる本. 講談社, 東京, pp86-87, 2015.

くすり

薬を飲み始めて1年になります。日によって薬の効き目が良い日と悪い日があるのはなぜでしょうか。(60代・男性より)

脳内のドーパミンの量は、気分や体調の変化で大きく変動します。何か楽しいことがあったり、人前にでたりするとドーパミンの量が多くなります。これとは逆に気分が落ち込ん

でいたりすると、ドパミンの量が少なくなります¹⁾。このため、お薬の効き目が日によって良いと感じられたり悪いと感じられたりする可能性があります。

また、便秘が続くとお薬の吸収が悪くなり、効き目が悪くなる場合がありますので、明るい気持ちで毎日を過ごし、規則正しい生活や便秘の予防を心がけることも大切です¹⁾。

また、お薬を飲む場合には、

① ご自分の判断でお薬を飲む回数を変えたり、お薬を止めたりしない

② 飲むタイミングを変えない(食前に飲むと効き過ぎることがあります)

にもご注意ください²⁾。

【参考資料】

1) 武田篤(柏原健一ほか編): みんなで学ぶパーキンソン病. 南江堂, 東京, p33, 2013.

2) 村田美穂(監修): スーパー図解パーキンソン病. 法研, 東京, pp112-115, 2014.

くすり

食事によって薬の効き目が変わると聞きました。食事と薬の飲み方で注意した方がよいことはありますか? (60代・女性より)

特に食べてはいけないものはなく、普通の食事に制限はありません。逆に、パーキンソン病の症状を良くする特定の食品も今のところありません¹⁾。タンパク質の極端な摂り過ぎは、L-ドパの吸収を悪くしますが、通常の日本食であれば、特に減らす必要はないでしょう²⁾。

お薬を飲むタイミングは重要です。L-ドパは、食前と食後のどちらに飲むかで、体内に吸収されるL-ドパの量が異なってきますが、主治医から特別な指示がない限り、L-ドパは食事の後に飲みます³⁾。

また、ご自分の判断でお薬を飲むのを止めたり量を減らしたりすると、急激に症状が悪化することがあります。決められた回数通りに飲むことも大切です。

【参考資料】

1) 前田哲也(柏原健一ほか編): みんなで学ぶパーキンソン病. 南江堂, 東京, p92, 2013.

2) 柏原健一(監修): パーキンソン病のことがよくわかる本. 講談社, 東京, p56, 2015.

3) 村田美穂(監修): スーパー図解パーキンソン病. 法研, 東京, pp112-115, 2014.

